

シヨクダイオオコンニャクの発芽生育記録

上野明楽

はじめに

世界最大の花として知られるシヨクダイオオコンニャクは開花するたびにメディアに取り上げられる話題性のある植物である。この度筑波実験植物園より国内で初めて結実したシヨクダイオオコンニャクの果実を受領する機会があり、発芽が確認できたことからこれを報告する。

導入と栽培

令和6年3月末に筑波実験植物園に伺った際、シヨクダイオオコンニャクの果実を収穫させていただく機会があったため、3粒を広島へ持ち帰り、播種した。

4月2日に果実をカッターで半分に割り、(写真1)。中の種子を取り出した。1つの果実に種子が2つ入っており、合計で6粒の種子を得ることができた。(写真2)。

用土は赤玉土小粒と鹿沼土小粒を微塵が抜けた状態で1:1の割合に混ぜて播き床とした。

種子は埋め込み、覆土した。置き場所は栽培温室5号棟であり、冬場の最低気温が15℃を下回らないように管理し、用土の表面が軽く乾いたら上部から灌水をした。

発芽確認

4月2日に播種を行い、6月17日に発芽が確認できた。最初に発芽した株が葉の展開を完了したのが7月30日であった。(写真3)。また、7月30日時点ですべての株に発芽が見られた。

展葉してからも灌水の頻度は変えず行った。遮光については6月から10月まで遮光率50%とし、それ以外は無遮光で管理した。

害虫については、展葉後にアブラムシが見られたため、その都度防除した。

所感と今後の展望

国内初となる国内実生のシヨクダイオオコンニャクの栽培なので、国内で今まで咲いてきた株と花に違いがあるのか、どの施設が最初に開

花させるのか等興味が尽きない。今後は用土の検討も含めて栽培記録で継続して記録していきたい。また、本園で過去に栽培していた個体は、毎年約5倍の大きさに成長していたため、国内で咲いた株の重量を知ればおよそその開花年数を予想することができる。本園でも10年以内に開花することを目標に栽培していきたい。

謝辞

この度はシヨクダイオオコンニャクの果実提供に快く協力していただいた筑波実験植物園の小林様をはじめ職員の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



写真1 果実を割ったところ



写真2 種子を並べたところ



写真3 すべての株の芽出し(7月30日)